

第 16 計;中国人は何故仕事に対し忍耐力がないのか？（職を変えるのか？）

ー若い中国人には「臥薪嘗胆、石の上にも三年」の価値観が少ないー

私の知人のモンゴル人の中国人は上海に行って、二年間で 15 回職を変えました。理由を聞いたところ「①給料が安い・②私の能力を認めない・③仕事がきつい・④上司が煩（うるさ）い・⑤将来の希望がもてない・⑥同僚が苛（いじ）める・⑦結婚対象となる女性がない・⑧日本に行くことができない・⑨福利厚生が悪い・⑩交通が不便」と答えました。また私が「あなたの転職理由は合計 10 ですね、15 回職を変ったということは、5 回首になったと言う事ですか？」と聞くと、「5 回も首になっていません、3 回はあるけど。」と答えました。彼は、今は無事職場結婚をしてマンションも買い二歳半の男の子が一人います。現在の職場では 2 年半続いています。先日突然電話がかかってきて、「どこかい会社か、いい事業がないですか？」と聞くので、「今度の理由は何かと」聞くと、「嫁さんの給料に負けている。私の面子がない。いつも嫁さんに小遣いの出金申請をしてからもらっている」と言いました。私は「幸せですね、しかし貴方は本当に遊牧民族ですね」と答えたのであります。彼の奥さんは同じ会社に 5 年勤めています。安徽省の田舎出身であり、珍し

く忍耐力があります。

この奥さんは稀有なケースであり、中国人の平均離職率は男女問わず2・3年と言われています。中国人は中国人の会社自体が永く続かないと考えているからかもしれません。儲かっても給料を上げてくれない。それならば、早く条件のいい会社に転職すればよいと考えているようでもあります。

若かして、この中国人特有の価値観がある以上、私はいくら優秀な中国人に日本企業への就職を頼まれても紹介できないのであります。日本の大企業は、新人は、3年間は投資で、10年間の勤務で人材投資が成功か否かが判断できると考えています。日本人には「石の上にも三年」（どんなに辛くても三年間は我慢する）の諺があり、滅多に離職はしないものです。

そういえば、“臥薪嘗胆（がしんしょうたん）”は、復讐の為に耐え忍ぶこと、また、成功するために苦勞に耐えるという意味を持ちます。

紀元前6-5世紀に越の国王勾踐（こうせん）が呉の国王夫差（ふさ）との戦争に敗れ、中国四大美女の一人である西施（しし）を夫差に差出命を許された。中国兵法31番目の「美人の計」である。その後、勾踐は薪（まき）の上で寝起きしわざと自分を厳しく戒め、粗食を食べ

て戦力を蓄え、夫差を打ち破った。その後西施は杭州の湖に飛び込み自殺したとされる。(杭州は日本の松島によく似ています。)

成語故事(四文字熟語)の大半は中国から日本に入ってきたのに、何故現代中国人はこの“臥薪嘗胆 (がしんしょうたん)” 故事を忘れてしまったのか？が、私には理解できないのであります。中国の経済発展が速すぎるのかもしれない。2010/10/16